



第33回はつかいち桜まつり 開催



満開のさくらが咲きほこる4月7日、廿日市市木材港北の昭北グラウンドで「第33回はつかいち桜まつり」が行なわれ、約5万3千人が訪れました。心配された雨も降らず快晴の中、廿日市の一大イベントに多くの来場者が駆け付け、祭りを楽しみました。会場では、廿日市地区の支店長・センター長6人が恒例の「新鮮農産物販売コーナー」を出店し、JAの野菜をPRして祭りを盛り上げました。



▲ホウレンソウのナン風パンづくりに挑戦!



▲いただきます～

参加者は「農家から直接おいしい食べ方を学べてよかったです」と話しました。野村さんは「ホウレンソウはどんな食材にもあう万能の野菜。地元的新鲜なホウレンソウを毎日の食卓に活用してもらいたいです」と話しました。

JA佐伯中央地域は3月27日、廿日市市のJA産直ふれあい市場「よりん菜」で特産のホウレンソウを使った料理教室を開き、小学生の親子を含む12人が参加しました。同市永原でホウレンソウ農家を営む野村麗さんが講師を務め、ホウレンソウのスパイスカレーやグラタン、ナン風パンなど5品を作りました。ホウレンソウは、野

村さんがその日の朝に収穫したばかりのものを使いました。調理後は、野村さんと職員が管内で栽培が盛んなホウレンソウの魅力や育て方、おいしいホウレンソウの見分け方などを説明しました。

ホウレンソウ農家からオリジナル料理を学びました!
(JA産直ふれあい市場「よりん菜」)



菜の花畑で地域を盛り上げる (廿日市市津田)



▲菜の花畑を紹介する吉田さん

廿日市市津田のひふみ市場近くの畑で、一面の菜の花が咲きました。

多くの人に足を運んでもらい地域を盛り上げようと、同地域の若手農家で構成する佐伯農業者クラブの有志らが、初めて菜の花畑の耕作に取り組みました。約30aの耕作放棄地を活用して昨年9月に種をまき、3月下旬に開花。4月中旬ごろまで訪れた人の目を楽しませました。

持ち帰り可能な菜の花の摘み取り体験も実施。同クラブのメンバーが廃材で作った撮影用の特設ステージも設置しました。

同クラブの吉田直貴会長は「菜の花を目で見て楽しむだけでなく、ほろ苦く甘い旬の味を食べて楽しんでもらえたら嬉しいです」と話しました。



夏野菜苗の販売はじまる (廿日市アグリセンター)

JA佐伯中央地域の廿日市アグリセンターは4月17日から、夏野菜苗を販売しました。直接来店できない組合員や地域住民に苗を販売しようと、支店や地域の集会所などに出向きました。

17日は、旧地御前支店の駐車場にトマト、ナス、キュウリなど約28種類の夏野菜苗を販売しました。販売開始前から待っていた大勢の組合員や地域住民が訪れ、目当ての苗を購入。アグリセンター職員が苗の選び方や定植後の管理など栽培についてアドバイスもしました。

同センターの小泉貴資センター



▲夏野菜出張販売

長は「出張販売では日ごろ店舗に足を運べない人にも直接アドバイスができます。多くの人に野菜作りを楽しんでほしいです」と話しました。



水 稲

田植えの準備から 田植え後の管理

5月に入り、本格的な田植えの時期となりました。
田植え前の準備から田植え後の管理を掲載します。

田植え前の準備

【代かき】

代かきは、田面が均一になるように丁寧に作業をしましょう。苗を植えやすくするためではなく、苗の水没や露出を防ぎ、漏水防止や雑草の抑制、除草の効果を高めることにつながります。

【箱苗の防除】

田植え直前の箱苗の防除について、防人箱粒剤を1箱に50gを施用し、初期の病害虫防除を行ないます。

田植え作業

稲作ごよみを参考に地域ごとに適切な時期に行ないましょう。風のない日が好ましいです。

田植え後の管理

苗は移植されるときに多くの根が切断されます。そのため移植直後の養水分の吸収が一時的に止まり、植え傷みを生じます。

移植された苗から新しい根が伸びてくると、養水分の吸収が回復し、葉も元を取り戻します。

【活着期の水管理】

苗の活着の良し悪しは、水の温度が重要となります。
気温が高い程活着は早く進みますが、気温が高くても冷たい水を当ててしまつては、発根が遅れ植え傷みを生じます。田植えから7〜10日間は水を深くためて昼間に水を温め、夜温が下がっても保温出来る深水（苗が水没しない程度）の管理を行な



【注意】箱施用粒剤1kgと除草剤1kg粒剤の外形が似ていますので使用前に必ず確認して施用してください。

いましょう。

【分けつ期の水管理】

活着後、深水を続けると、分けつの発生が抑制されるうえ、土の中の酸素不足が進んで根の機能が低下し、赤枯れ状態を併発して軟弱となり、健全な生長が妨げられます。

また、気温が上昇してくると土壌中の微生物の活動が活発になるため土壌中の酸素が消費されて酸素不足となり、同じく健全な生長が妨げら

J A米について

J Aグループでは、安全・安心な米を安定的に提供するために、一定の要件を満たしたお米を「J A米」として取り扱っています。

【J A米の3つの要件】

- ① 種子更新を毎年行なうこと。J Aやその他の販売先での購入が可能ですが、必ず種子証明を保管しておいてください。育苗センター等で苗を購入された場合も納品書を保管しておいてください。なお、自家採取の種子で栽培された場合は一般米となります。
- ② J Aなど、国で登録された検査機関で農産物検査を受けていること。
- ③ 栽培管理表、自己点検チェックシートに記録をしていること。
農薬や肥料の使用状況を栽培管

れます。

苗活着後は、間断かんがい（水を溜めたり落したりすること）を行ない、土の中へ酸素を供給して根の発育を良くし、分けつの促進に努めてください。

除草剤の散布

除草剤の処理方法は、一発処理と体系処理があります。

それぞれ除草剤の用法・用量を守り適切な時期に散布してください。

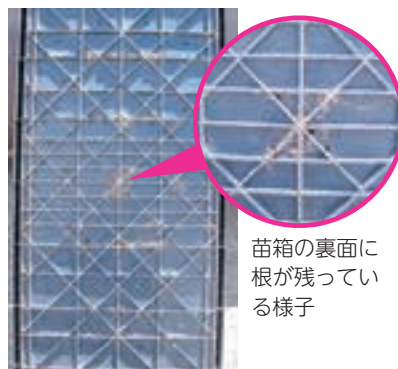
稲作ごよみの活用

「稲作ごよみ」には水稲栽培の主な作業を行なった日が記入できる箇所を設けていますので、作業後に記入し、栽培管理に役立ててください。栽培管理表の記帳も転記するだけでスムーズに行なえます。

★栽培管理表（生産履歴）の記帳は米だけでなく、産直へ出荷する野菜などについても必要です。消費者のみなさんに安全・安心な農産物を提供するため、また生産者のみなさんが適正に管理されていたことを証明するものとなりますので、ご協力お願い致します。

水稲苗箱返却時のお願い

育苗箱は必ず洗ってから返却してください。苗箱の裏側に根が残っている場合が多く見られますので、根が残らないように苗箱裏側も洗っていただき、何枚かをヒモで縛って返却いただきますようお願いいたします。



家庭菜園

キュウリ

追肥・水やりで長期収穫

キュウリは食感と新鮮さが命。家庭菜園なら実が少し小さくても大きくなつても楽しめます。生育適温は日中22〜28度、夜間17、18度です。根は浅く張るため乾燥に弱いので、水持ちが良く、有機物の多い畑が適します。

品 種

「VR夏すずみ」（タキイ種苗）はうどんこ病やべと病耐病性で、ウイルス病にも強い品種。「よしなり」（サカタのタネ）は、暑さ寒さに強く安定して長期間収穫でき、うどんこ病やべと病に強いです。

苗作り

植え付け時期から逆算しておおよそ30日前に、加温された9cmポリポットに3粒ずつ種まします。発芽したら30度以上にならないように換気し、本葉1枚の頃に間引いて1本立ちにし、本葉4、5枚まで育苗します。加温育苗しないときは、5月上旬から中旬ごろが種まき時期です。購入苗はつる割れ病に強い接ぎ木苗を選びましょう。

畑の準備

植え付け2週間前までに1㎡当たり苦土石灰200gをまき、土と混ぜておきます。次に、1週間前に化成肥料（NPK各成分10%）200g、堆肥2、3kgを予定した畝幅に散布し、よく耕しておきます。土壌水分が適度なときにマルチを張り、地温を上げておきます。

植え付け

遅霜の心配がある地域では5月上旬から中旬、トンネル栽培の場合は4月中旬から下旬ごろが植え付け時期です。栽植方法は、2条植えでは

図1 植え付け

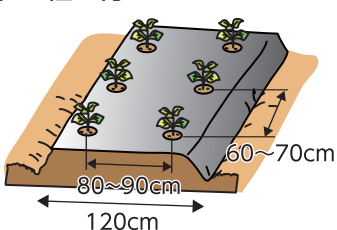


図2 支柱立て

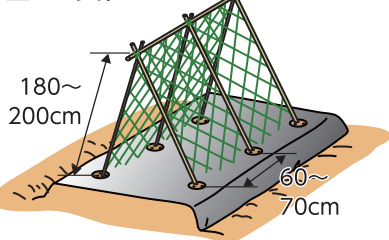
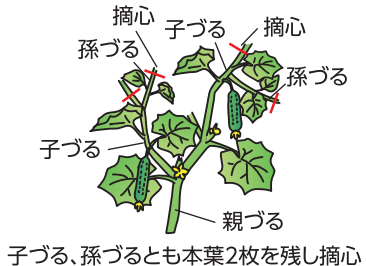


図3 摘心



追肥・水やり

肥切れさせないように、収穫終了

摘葉・摘果

黄化した下葉や病気の葉は随時摘葉し、曲がり果などの変形果は小さいうちに摘果して、株の負担を軽くします。

誘引・摘心

植え付け時は仮支柱を立て、ひもで緩く縛ります。次に、つるが伸びだす前に支柱を用意し、合掌式に支柱を組みます。そして、支柱にキュウリネットを張り、つるをネットに誘引します（図2）。親づる（主枝）の下から5、6葉までの子づると雌花は、全て早めに摘み取りま

す。その後の子づる、孫づるは2葉を残して摘心し、親づるは支柱の高さで摘心します（図3）。

収 穫

前まで2週間ごとに追肥を続けま

す。1回目は果実が取れる頃に株の周りに施し、軽く土と混合します。2回目以降は1㎡当たり化成肥料30g程度を畝の肩に浅く溝を作つて施し、薄く土をかけます。キュウリは特に水分が必要で、畑が乾いていたらず水やりをします。

病害虫防除

べと病やうどんこ病は、登録農薬で防除します。アブラムシは、粘着くん液剤などを散布します。

（園芸研究家 成松次郎）

イキイキ女性部



▲新任挨拶をする長尾輝子
女性部長



▲8年間部長の責務を果たさ
れた西本タツ子さん



▲4議案が承認されました

佐伯中央地区本部は4月17日、広島県廿日市市のJA佐伯中央地域統括店（旧JA佐伯中央本店）で女性部佐伯中央地区本部総代会を開き、総代や関係者ら53人が出席しました。役員選任で、女性部長に長尾輝子さん、副部長に向畑節子さん、倉本嘉代子さん、田中美乃里さんを選任しました。

2024年度は、JAを拠りどころに地域や仲間とつながり、まもり、かかわることのできる食・農・地域の活性化と、仲間づくりやJA事業への積極的な運営参画をすすめます。

長尾新部長は「佐伯中央らしさを大切にします。前部長の思いをつなぎ、新たな活動にも積極的に挑戦していきたいです」と話しました。

総代会では佐伯中央地区本部が発行する広報紙「つどい」春号を全ての部員に配布しました。女性部役員らが発刊。地区本部や各支部の活動などを掲載し、今後の仲間づくりにも活用していきます。

新しさを取り入れ、積極的に活動



Information お知らせ

JA女性部 部員募集

JA女性部は、食や農、くらしに関心のある女性が集まって活動している組織です。
現在、一緒に活動する仲間を募集しています。
廿日市市・大竹市にお住まいの方なら誰でも気軽に参加できます！

こんな活動をしています

- ・女性講座
- ・手づくり
- ・地産地消
- ・環境保全
- ・教育支援
- ・健康管理

★フレッシュミズ

次世代を担う女性のグループです。

★加工部

加工クラブ(ゆずこしょうの製造・販売)
総菜部(よりん菜「ばあ～ばのキッチン」
で弁当や総菜を手づくりし販売)

問 総務管理課 (0829) 39-3232 廿日市市宮内4473-1

わたしたち、女性部活動を
楽しんでいます！



▲料理教室・
お菓子作り教室



▲寄せ植え教室



▲クッキングフェスタ



▲みそ造り